

滋賀県文化振興基本方針(第3次)の進捗状況について(令和5年度)

施策の柱1 場をつくる

県民誰もが文化芸術に親しみ、多様な主体や世代等がつながる場をつくる

- 1 施策の実施状況
- 2 評価指標の状況
- 3 関連する情報
- 4 まとめ

1 施策の実施状況

重点施策1 誰もが文化芸術に親しめる場の提供

- 県立美術館(R5.12.21～R6.4.19は改修工事のため長期休館)では、ジャンルの異なる3本の企画展および13本の常設展を開催し、鑑賞の機会を提供することで延べ47,569人が展覧会を観覧。また、美術の楽しさを知ってもらう機会として地域連携プログラムを79回実施し、4,025人が参加。
- 「ホールの子」事業では、令和4年度より実施しているびわ湖ホールまでの交通費の全額補助により、過去最多となる10,049人の児童がオーケストラの演奏を鑑賞。
- 滋賀次世代文化芸術センターの「文化芸術連携授業」や「美ココロ・プログラム」では、アフターコロナへの対応をテーマに子ども・若者が文化芸術に触れられる機会を創出。

重点施策2 多様な主体がつながる文化芸術活動の促進

- 「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト推進補助金を実施し、県内各地で行われているアートや暮らしの中にある美の資源を活用して地域を元気にする取組(7団体)を支援。
- 第53回滋賀県芸術文化祭を開催し、主催事業・参加事業あわせて317,010人が来場。また、美術展、写真展、文学祭において計588作品が入賞・入選。文化芸術の鑑賞機会を広く提供するとともに創作活動の発表の場を提供。
- 障害者等の多様な人が集える場づくりに向けて、「障害者等の文化芸術活動を支える拠点づくり事業」を実施。県内3地域(長浜市、東近江市、甲賀市)での文化芸術プログラムや、バリアフリー演劇祭(守山市)を実施。

2 評価指標の状況

施策の柱1 「場をつくる」

目標達成指標 1/4 (①)

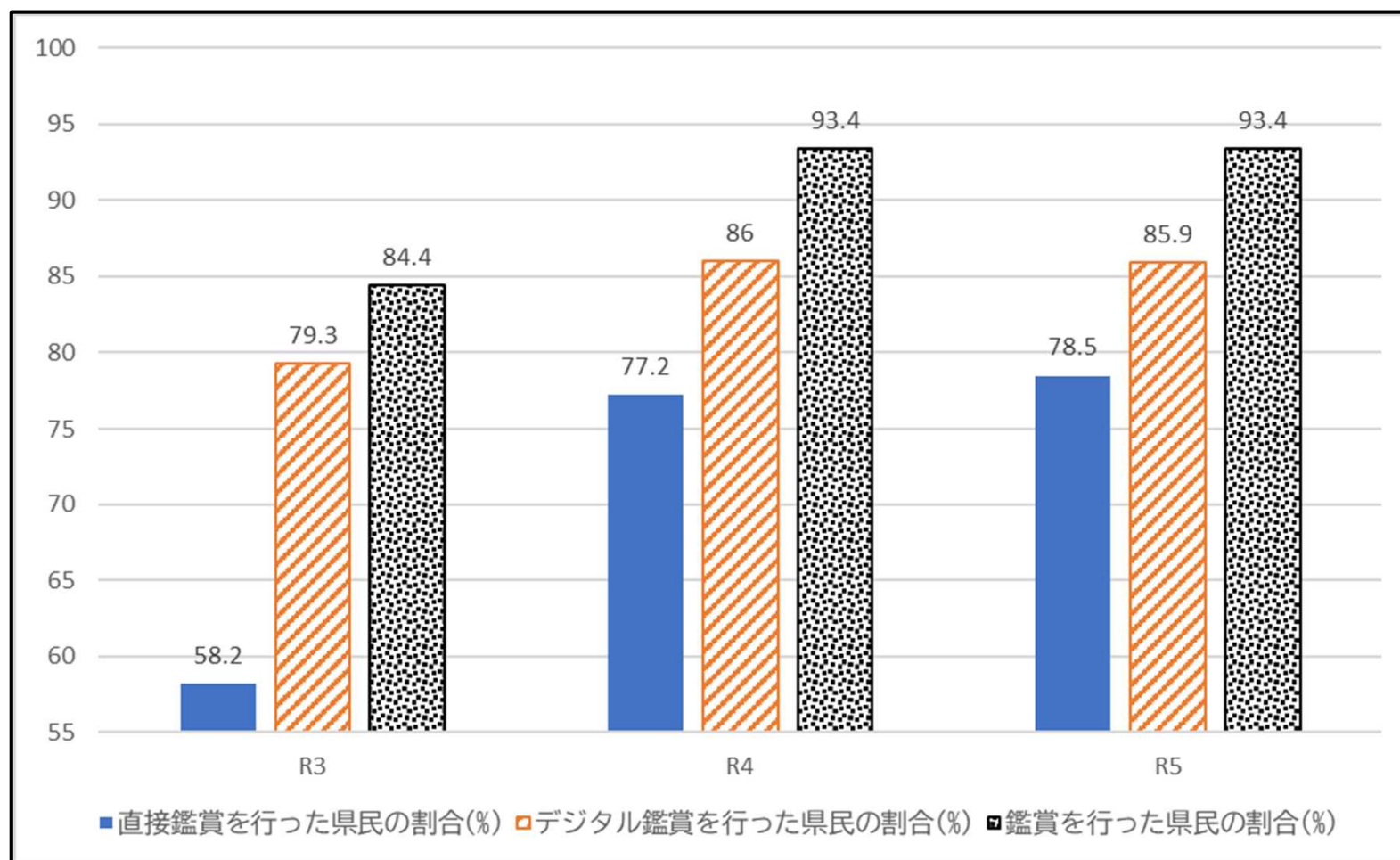
評価指標 (把握方法／把握時期)	策定時 (R1)	実績値						目標 (R7)
		R2 (参考)	R3	R4	R5	R6	R7	
① 1年間に文化芸術を鑑賞したことの ある県民の割合 (県政モニター調査／5年9月)	73.7※	62.9※	84.4	93.4	93.4			85.0%
②文化芸術活動に取り組むことができ る環境が整っているとする県民の割合 (県政世論調査／5年7月)	38.4	39.4	41.1	34.2	36.0			50.0%
③学校と連携した文化芸術プログラムの 参加児童数 (県事業の実績から算出／6年6月)	22,699	9,707	16,623	21,154	21,470			26,000人
④民間団体や市町等と連携した文化芸 術事業実施数 (県事業の実績から算出／6年6月)	369	256	298	364	385			420件

※直接鑑賞のみの割合

3 関連する情報

- ・直接鑑賞を行った割合の増加
- ・デジタル鑑賞の一般化の継続

「①1年間に文化芸術を鑑賞したことがある県民の割合」(年度別・鑑賞方法別)



(参考) 県政モニターアンケート 有効回答数:256人

①県政モニターの年代別人数

～20歳代…17人、30歳代…34人、40歳代…43人、50歳代…49人、60歳代…53人、70歳代～…60人

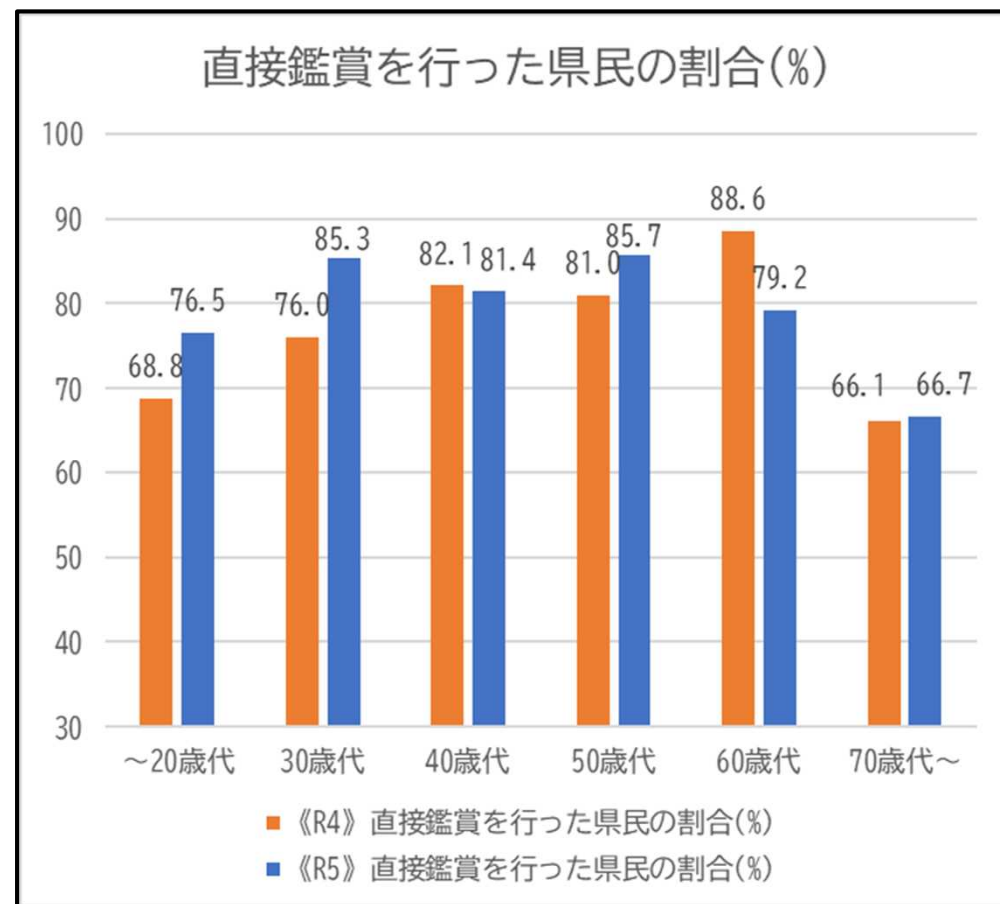
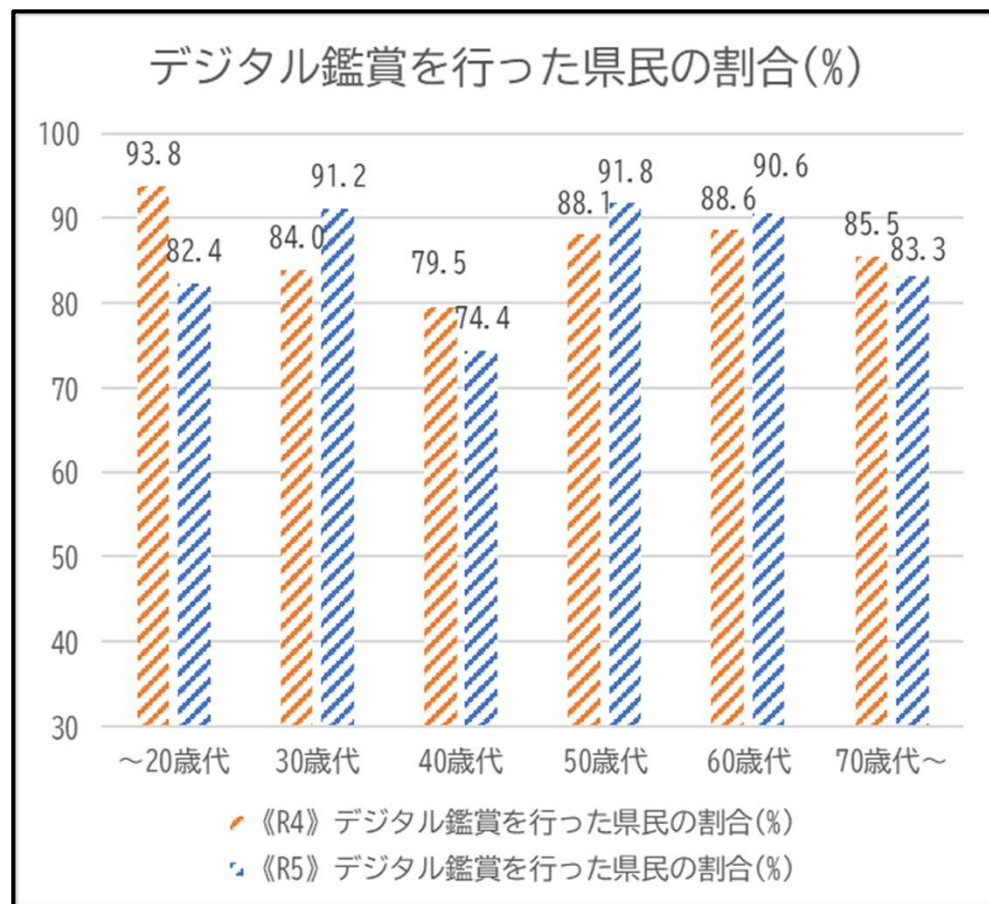
②県政モニターの地域別人数

大津…60人、湖南…65人、甲賀…28人、東近江…40人、湖東…25人、湖北…28人、湖西…10人

3 関連する情報

・ほとんどの世代で直接鑑賞よりもデジタル鑑賞が多い

「①1年間に文化芸術を鑑賞したことがある県民の割合」(年代別・鑑賞方法別)



(参考) 県政モニターアンケート 有効回答数:256人

①県政モニターの年代別人数

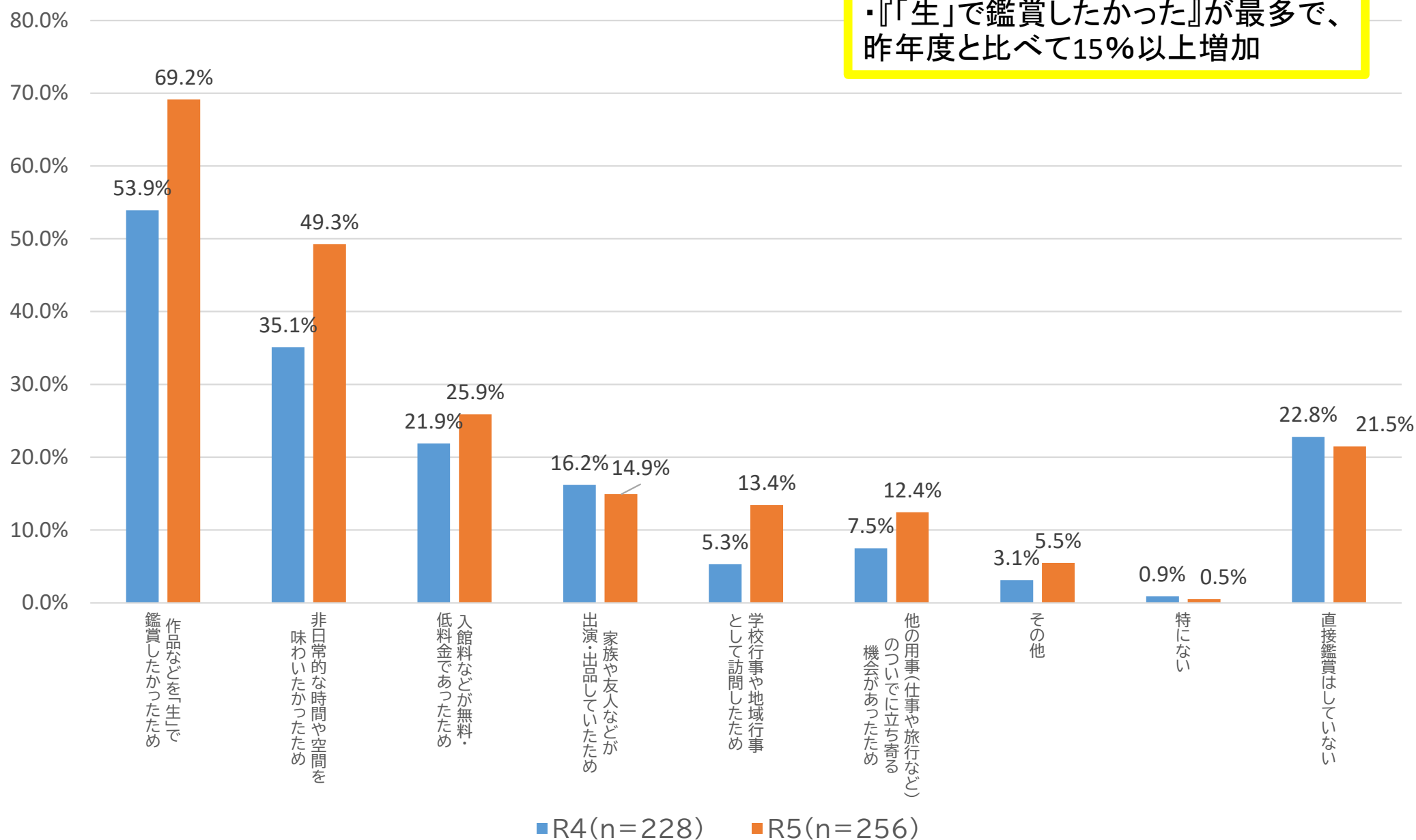
～20歳代…17人、30歳代…34人、40歳代…43人、50歳代…49人、60歳代…53人、70歳代～…60人

②県政モニターの地域別人数

大津…60人、湖南…65人、甲賀…28人、東近江…40人、湖東…25人、湖北…28人、湖西…10人

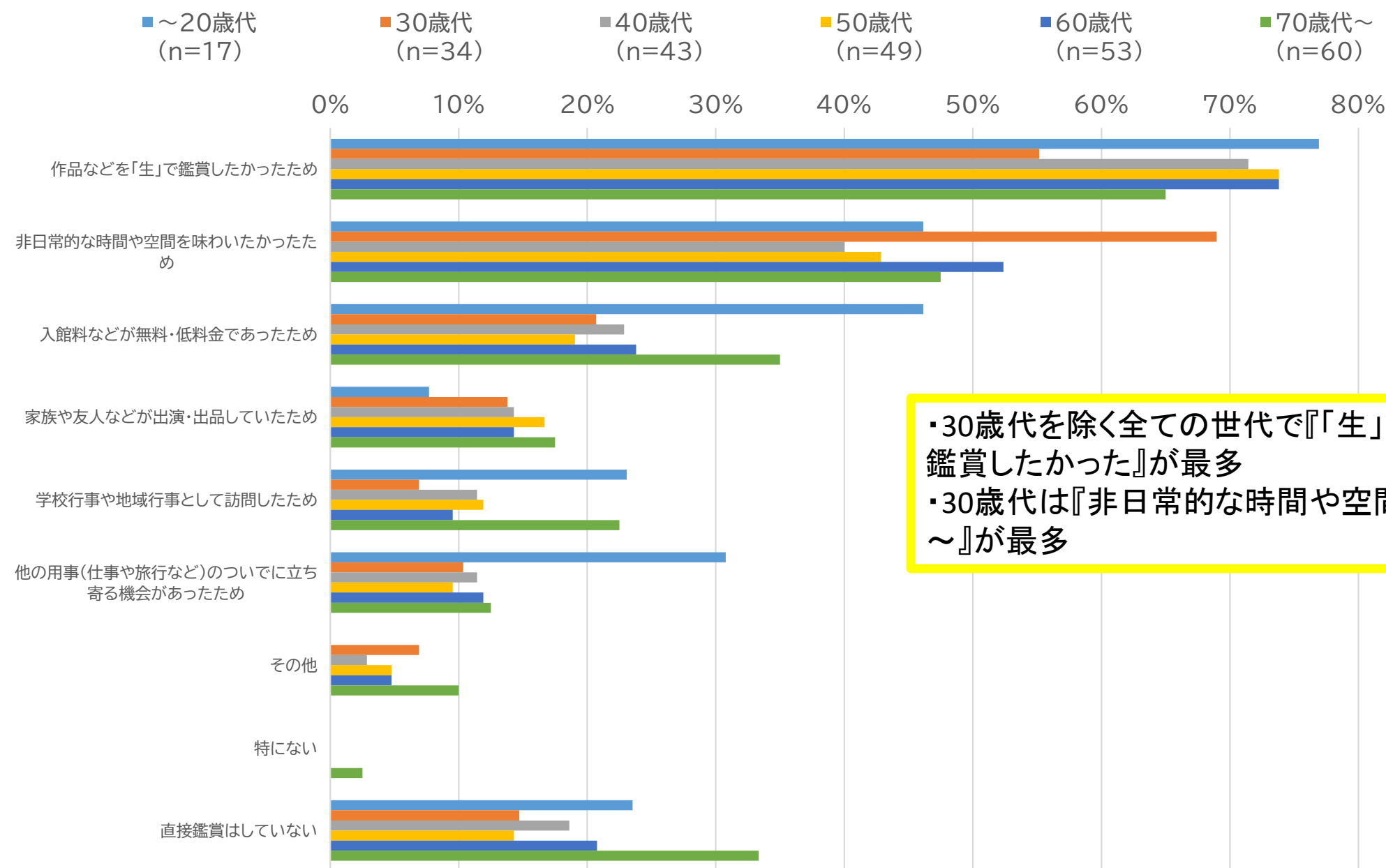
3 関連する情報

直接鑑賞をした理由別の割合(評価指標①関連)※複数回答可



3 関連する情報

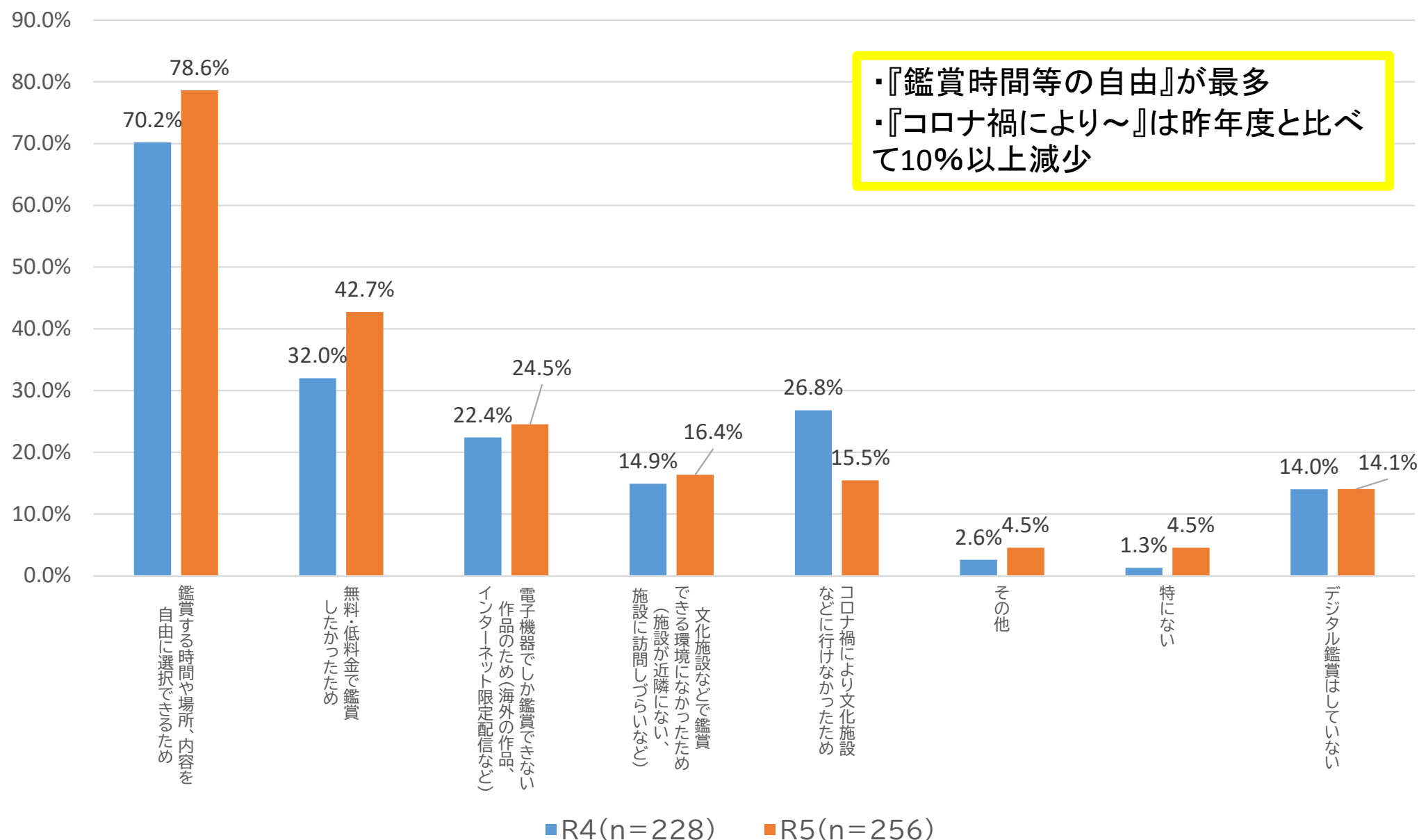
直接鑑賞をした理由別の割合(評価指標①関連)(年代別) ※複数回答可



・30歳代を除く全ての世代で『「生」で鑑賞しなかった』が最多
 ・30歳代は『非日常的な時間や空間~』が最多

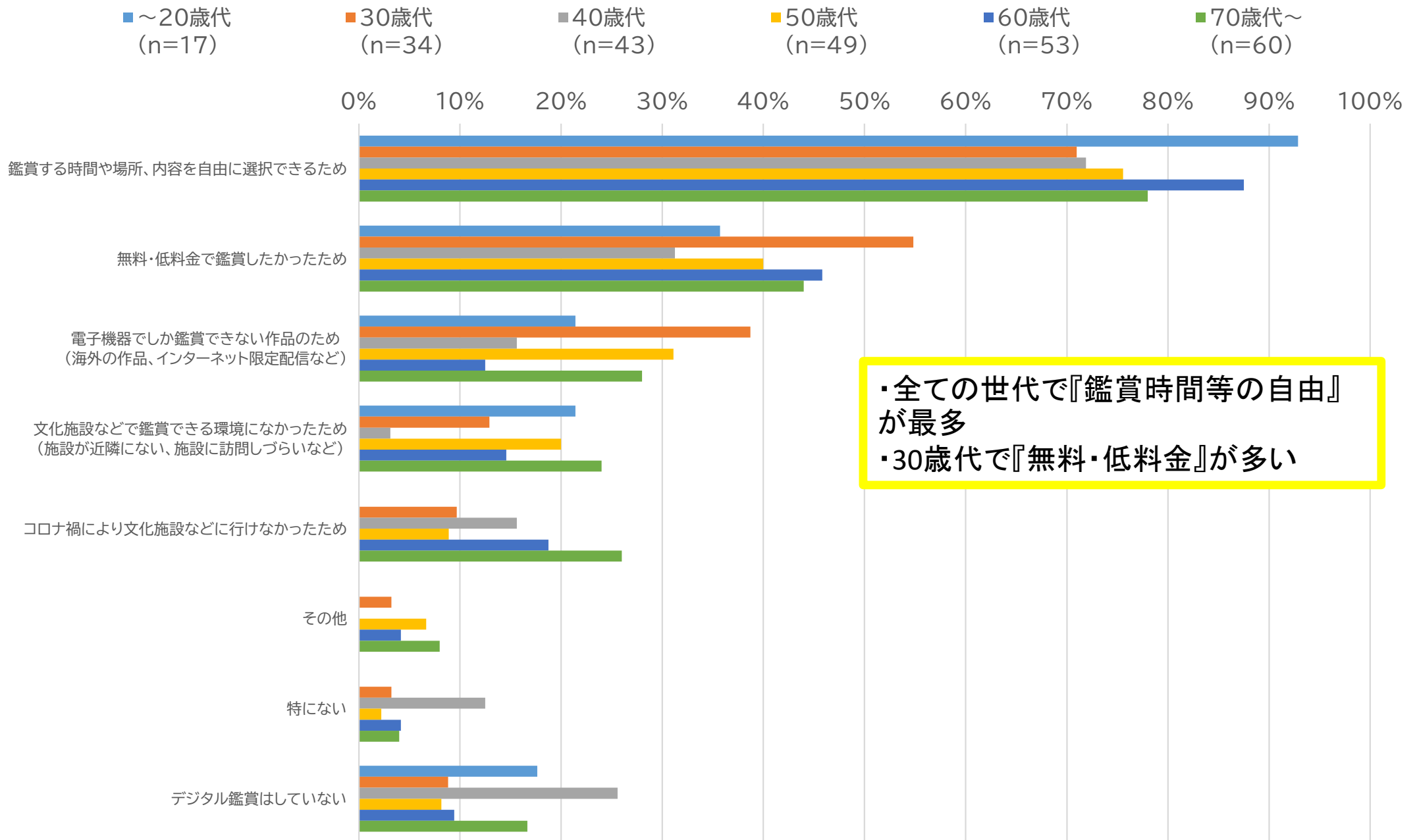
3 関連する情報

デジタル鑑賞をした理由別の割合(評価指標①関連)※複数回答可



3 関連する情報

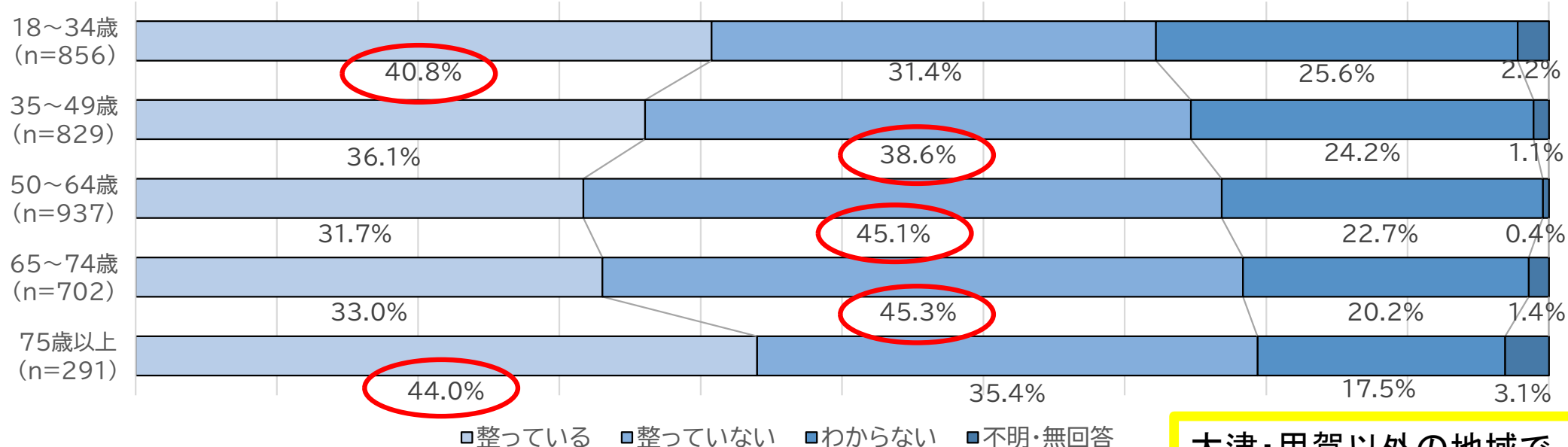
デジタル鑑賞をした理由別の割合(評価指標①関連)(年代別) ※複数回答可



3 関連する情報

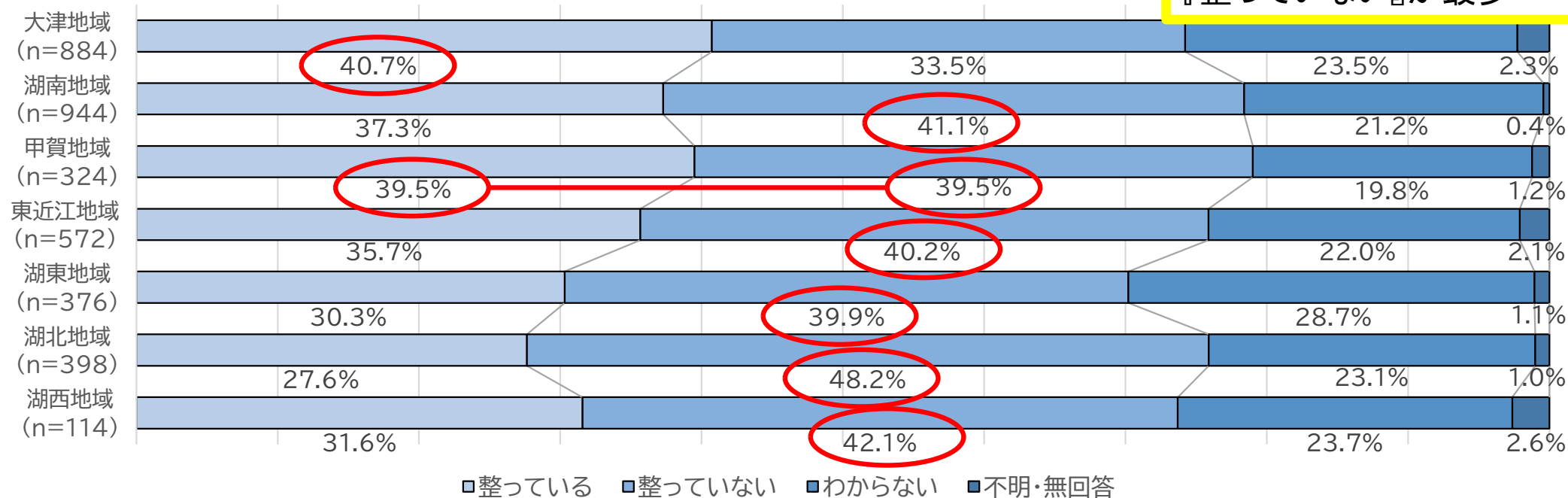
35～74歳で『整っていない』が最多

②「文化芸術活動に取り組むことができる環境が整っているとする県民の割合」(年代別)



大津・甲賀以外の地域で『整っていない』が最多

②「文化芸術活動に取り組むことができる環境が整っているとする県民の割合」(地域別)



3 関連する情報

- ・参加児童数は昨年度と比べて増加
- ・地域別では湖南地域の参加割合が高い

「③学校と連携した文化芸術プログラムの参加児童数」(地域別)

(単位:人)

	大津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	合計
「ホールの子」事業	1,871	3,070	890	1,328	1,359	1,174	357	10,049
学校巡回公演	128	511	163	166	387	47	0	1,402
ふれあい音楽教室	33	215	52	386	326	132	67	1,211
和のじかん	168	0	79	59	75	178	5	564
文化芸術連携授業	1,032	2,642	270	231	263	133	0	4,571
美ココロ・プログラム	93	231	28	1	0	2	0	355
学校出前授業プログラム	209	492	85	619	189	47	15	1,656
高校生による音楽魅力発信事業	160	0	0	0	0	0	0	160
学校団体鑑賞	1,502	0	0	0	0	0	0	1,502
合計	5,196	7,161	1,567	2,790	2,599	1,713	444	21,470
<参考>								R4(参考): 21,154人
各地域の児童数 (小・中・特支・義務教育学校・各種学校の合算)	28,496	22,694	11,686	19,529	14,063	12,805	3,085	112,358
各地域の児童数に対するプログラムの参加割合	18.2%	31.6%	13.4%	14.3%	18.5%	13.4%	14.4%	19.1%
(令和4年度と同割合)	(13.5%)	(20.6%)	(18.7%)	(10.8%)	(21.5%)	(15.0%)	(14.0%)	(16.5%)

3 関連する情報

- ・事業実施数は昨年度と比べて増加
- ・地域別では湖西地域の事業数が少ない

「④民間団体や市町等と連携した文化芸術事業実施数」(地域別)

	大津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	オンライン	合計
芸術文化祭参加事業数	69	35	7	30	18	42	7	0	208
「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト実施数	25	2	9	0	6	12	0	3	57
美の糸口・アートにどぼん！実施プログラム数	49	0	0	0	0	0	0	0	49
ふらっと美の間民間施設設置数	2	0	1	0	0	1	0	0	4
地域出前プログラム実施箇所数	5	4	0	0	0	5	3	0	17
アートコラボレーション事業数	0	1	1	3	3	1	0	0	9
障害者等の文化芸術活動を支える拠点づくり事業数	0	1	1	1	0	1	0	0	4
びわ湖の春 音楽祭サテライト実施数	0	2	1	0	0	1	0	0	4
びわ湖・アーティスト・みんぐる実施数	1	0	0	0	1	0	0	0	2
展覧会関連イベント	25	0	0	1	0	0	0	0	26
アートキャラバン事業	0	1	1	1	0	1	0	0	4
「こども としょかん」キックオフフォーラム	0	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	176	46	21	37	28	64	10	3	385

4 まとめ

- 指標①の1年間に文化芸術を鑑賞したことの県民の割合は昨年度と変わらず、93.4%となっており、目標の85.0%を達成した。直接鑑賞の割合は60%後半～80%半ばとなっており、年代によって幅があるが、電子機器の利用による鑑賞は40歳代を除くすべての年齢層で8割を超えている。直接鑑賞とデジタル鑑賞のいずれも引き続き推進するため、それぞれのメリットを活かした施策を展開する必要がある。
- 指標②の文化芸術活動に取り組むことができる環境が整っているとする県民の割合は36.0%となっており、昨年度から1.8ポイント増加した。年代別では18～34歳および75歳以上を除くすべての世代で「整っていない」と回答した割合が「整っている」と回答した割合を上回っているが、すべての世代で「整っている」と回答した割合が5割に満たないため、すべての世代が充実した文化芸術活動に取り組める環境の整備が必要である。
- 指標③の学校と連携した文化芸術プログラムの参加児童数は21,470人となっており、昨年度から316人増加した。「ホールの子事業」では、県内全域から参加校が集まり、過去最多となる10,049人の児童が参加したことから、引き続き学校への周知等に努めていく。
- 指標④の民間団体や市町等と連携した文化芸術事業実施数は、昨年度より21件増加した385件となったが、実施地域に偏りがある。県内全域で文化芸術に触れる機会を提供するため、各種事業の開催場所の変更等を検討していく必要がある。

施策の柱2 人を育む

文化芸術をつなぎ支える人材や文化芸術の創り手や継承者を育む

- 1 施策の実施状況
- 2 評価指標の状況
- 3 関連する情報
- 4 まとめ

1 施策の実施状況

重点施策3 文化芸術をつなぎ支える人材の育成・確保

- 「文化行政担当者、文化施設管理・運営者向け研修」において、文化活動者を支える行政・文化施設の役割や福祉と芸術のつながり方について行政担当者や文化施設関係者に考えてもらう機会を創出。
- 滋賀次世代文化芸術センターの「美ココロ・パートナーシップ事業」では、適応指導教室や特別支援学校等18校（施設）に美ココロ・パートナーを派遣し、355人の児童生徒等に芸術体験の機会を提供。打楽器分野で新規の美ココロ・パートナーを1名受け入れ、育成した。

重点施策4 文化芸術の創り手や継承者の育成・支援

- 選定保存技術保持者に対し、後継者育成を目的に滋賀県文化財保存事業費補助金を交付するとともに、選定保存技術保持者等に助言を行った。
- 県立文化産業交流会館イベントホール内に特設する芝居小屋「長栄座」において、人と人、地域と地域を結ぶことをテーマとした公演制作事業「長栄座伝承会むすび」が完結を迎え、2日間2公演で540人が来場。当日は、第一線で活躍する実演家とともに古典芸能キッズワークショップ修了生や地元児童合唱団が出演し、創り手や継承者の育成・支援を実施。

施策の柱1・2 共通施策(新型コロナウイルス対策)

- 「文化芸術活動継続支援事業」では、感染防止対策を実施し、県内文化施設で文化芸術公演を行う利用者に対して、172件4,574千円の施設使用料の補助金を交付。

2 評価指標の状況

施策の柱2 「人を育む」
目標達成指標 **1/3**(⑥)

評価指標 (把握方法／把握予定時期)	策定時 (R1)	実績値						目標 (R7)
		R2(参考)	R3	R4	R5	R6	R7	
⑤ 1年間に文化芸術の創作活動に携わったことのある県民の割合 (県政モニター調査／5年9月)	63.5※1	55.6※1	26.6※2	34.2	41.4			77.0%
⑥ 研修で得た知識や技術を今後の活動に活かせると回答した受講生の割合 (県事業の実績から算出／6年6月)	—	—	90.7	88.4	90.1			80.0%
⑦ 県立文化施設の文化ボランティア数 (県事業の実績から算出／6年6月)	635	592	612	613	563			750

※1…創作活動のみの割合

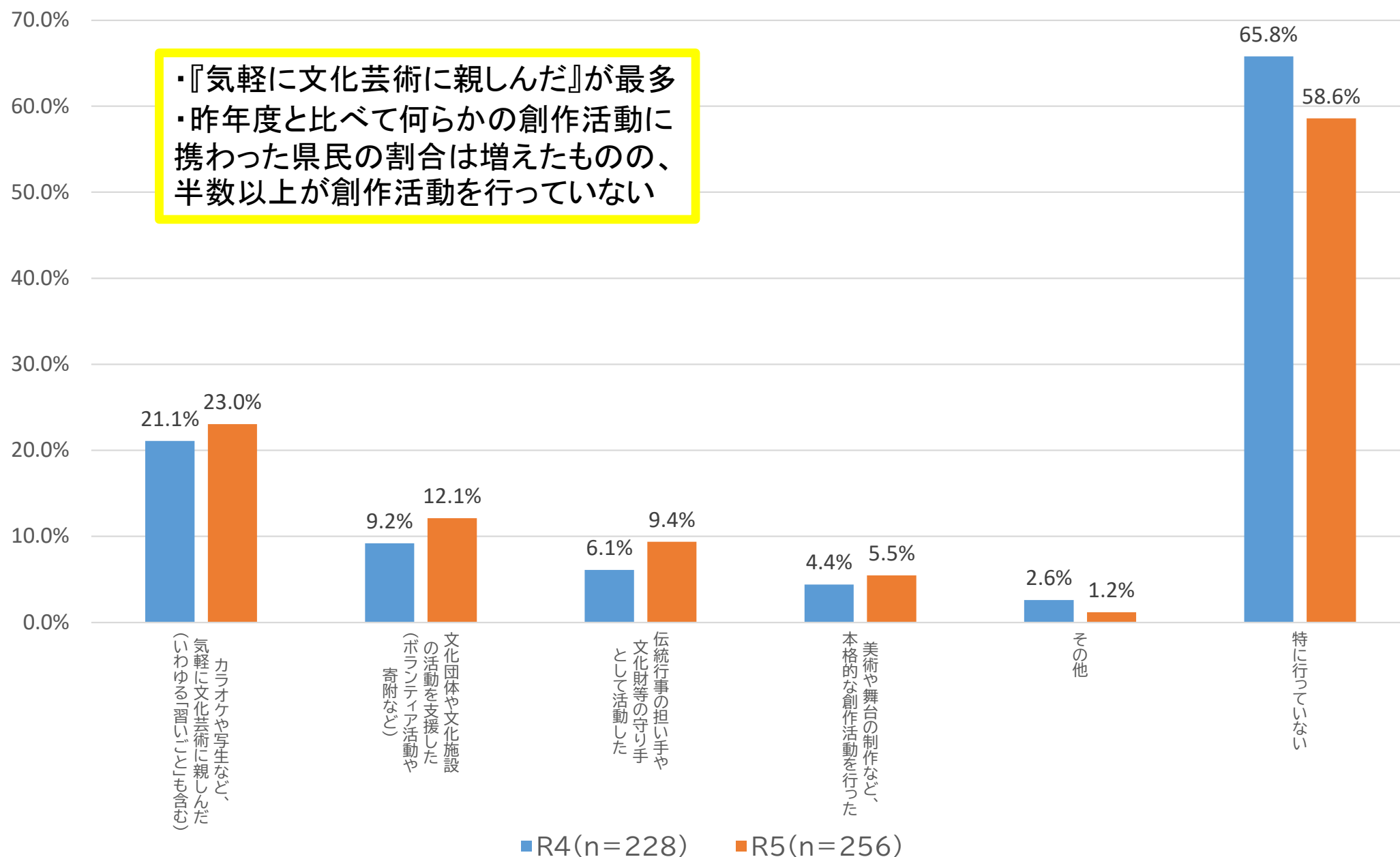
※2…令和3年度調査から質問項目を変更している。

(令和2年度)この1年間にあなた自身がされた文化創作活動は何ですか。

(令和3年度)過去1年間に、あなたは文化芸術活動を行いましたか。ただし、「鑑賞」のみの場合は除きます。

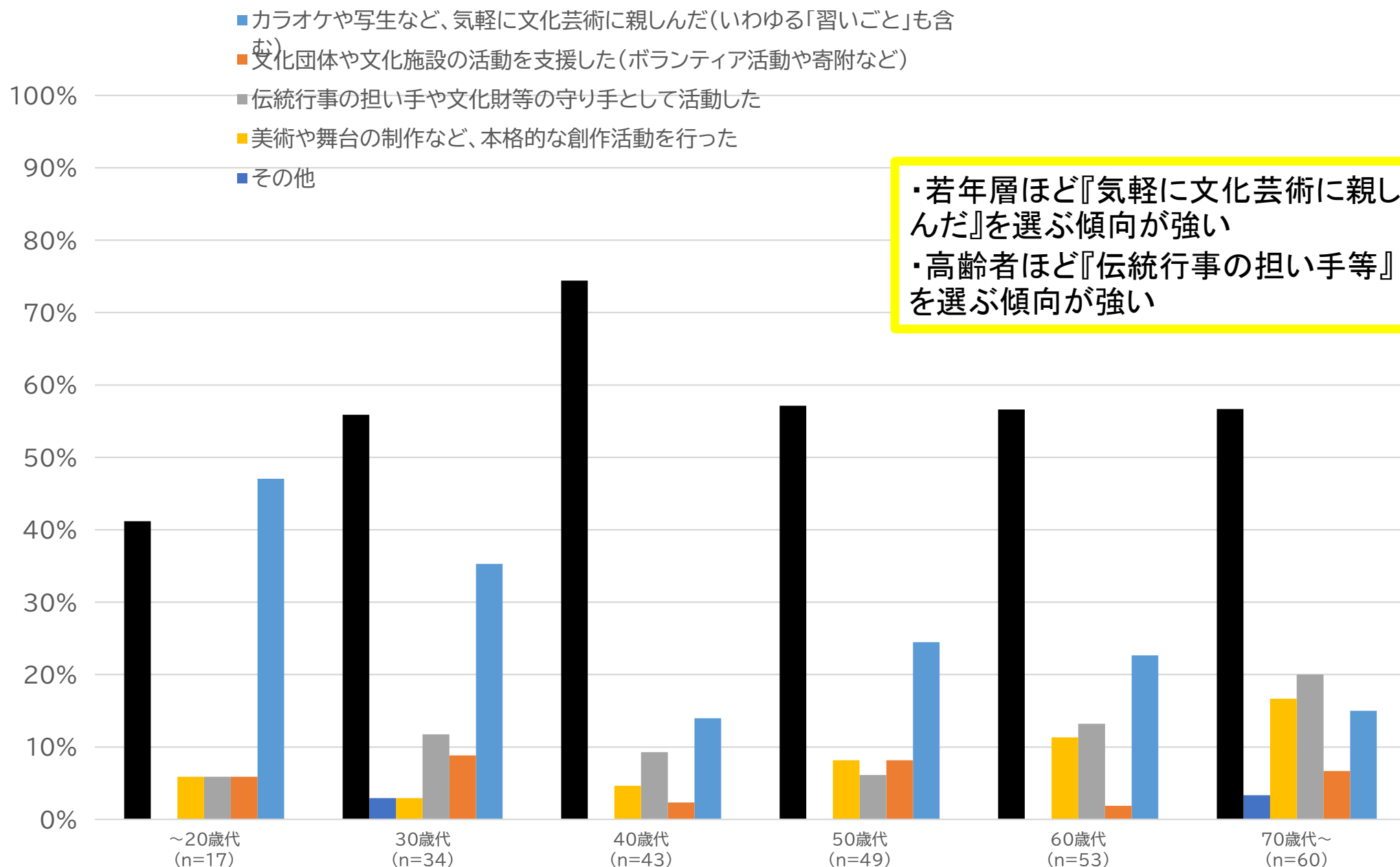
3 関連する情報

創作活動の内容別の割合(評価指標⑤関連)※複数回答可



3 関連する情報

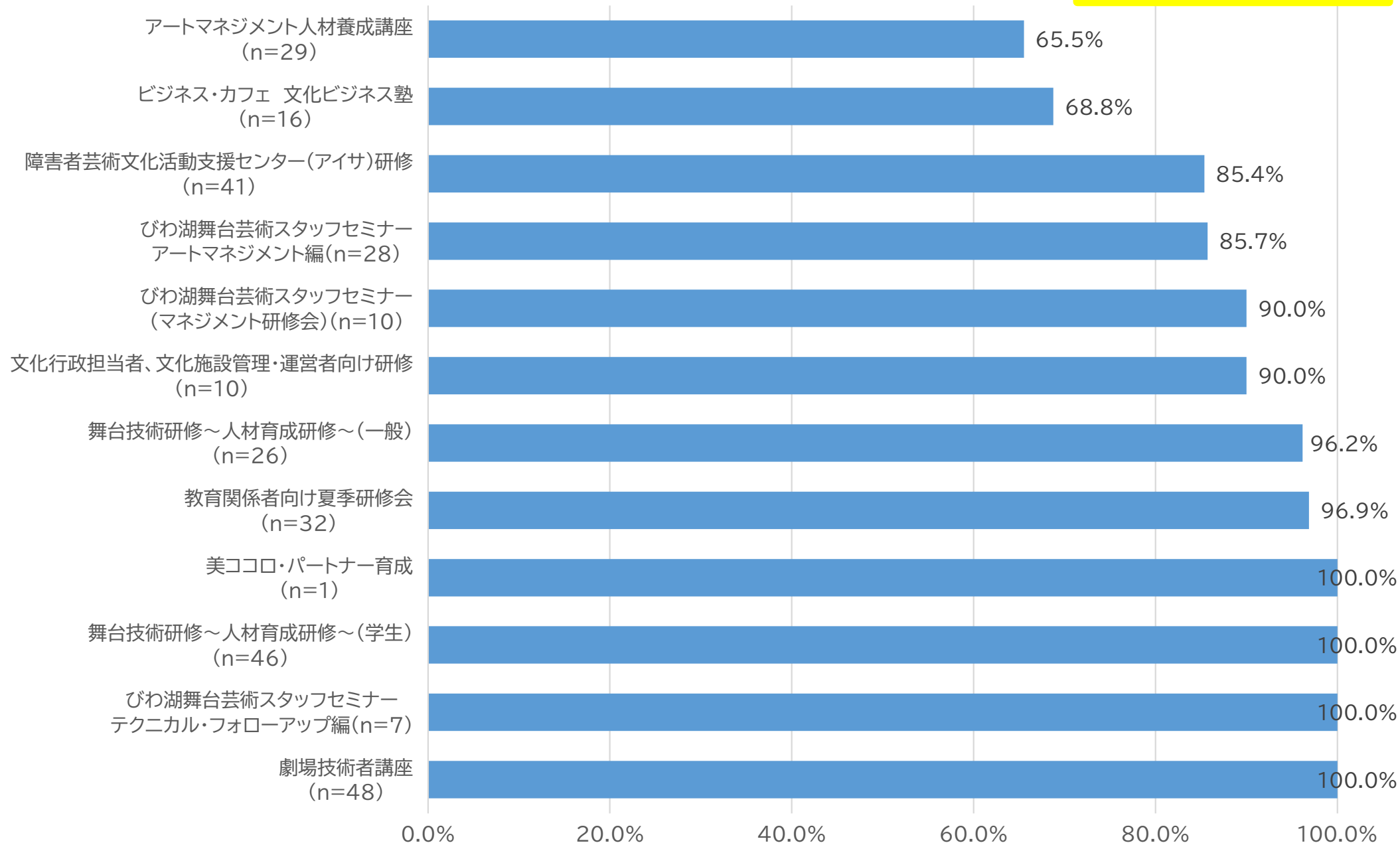
創作活動別の内容別の割合(評価指標⑤関連)(年代別) ※複数回答可



3 関連する情報

・ほとんどの研修で
目標値(80%)を達成

「⑥研修で得た知識や技術を今後の活動に活かせると回答した受講生の割合」(事業別)



3 関連する情報

「⑦県立文化施設の文化ボランティア数」(地域別)

・昨年度と比べて50人減少

単位:人

	大津	湖南	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	県外	合計
びわ湖ホール劇場サポーター	61	11	1	6	0	2	0	35	116
美術館ボランティア	34	0	0	0	0	0	0	0	34
琵琶湖博物館はしかけ制度									393
滋賀次世代文化芸術センター登録ボランティア	4	0	7	0	0	0	1	4	16
陶芸の森登録ボランティア	1	1	2	0	0	0	0	0	4
合計	100	12	10	6	0	2	1	39	563

R4(参考): 613人

4 まとめ

- 指標⑤の1年間に文化芸術の創作活動に携わったことがあると回答した県民の割合は41.4%と、前年度から7.2ポイント上昇し、過去最高となったものの目標値である77%には程遠い。ワークショップ等の気軽に親しめる創作活動の場の提供や、伝統行事の担い手や文化財等の守り手の育成につながる施策を引き続き推進する。
- 指標⑥の研修で得た知識や技術を今後の活動に活かせると回答した受講生の割合は90.1%と、昨年度から1.7ポイント増加し、目標値である80%を上回った。引き続き満足感の高い研修を提供できるよう取り組む。
- 指標⑦の県立文化施設の文化ボランティア数は、過去最低となった。策定時と比べると県外の方を中心に72人減少しており、すべての文化施設において昨年度の実績値以下となっていることから、文化ボランティアの確保に向けて、県内外に向けてより積極的に魅力を発信する必要がある。
- 新型コロナ対策として4月1日から9月30日までに実施した公演等に対して、文化芸術活動継続支援事業を実施した。令和5年度は施設使用料の1/4を支援することにより、文化活動者の活動継続につなげた。

施策の柱3 地域や社会に活かす
文化芸術の多様な価値を地域づくりや他分野に活かし、活力ある滋賀を創る

- 1 施策の実施状況
- 2 評価指標の状況
- 3 関連する情報
- 4 まとめ

1 施策の実施状況

重点施策5 地域で育まれてきた文化的資産の発掘・保存・活用

- 令和3年3月に策定した、(仮称)新・琵琶湖文化館基本計画に沿って整備を推進し、令和5年10月にPFI事業契約を締結した。令和9年度の開館に向けて、基本計画のスケジュールに沿って事業を推進。
- 彦根城の世界遺産登録に向けて、国の文化審議会世界文化遺産部会より示された意見に対応し、事前評価申請書を作成して9月に国からユネスコに提出した。また、彦根商工会議所、滋賀大学、滋賀県立大学と共同し、講座を行うなど、発信に努めた。
- 特別史跡安土城跡調査整備事業に着手し、天主台周辺発掘調査を実施するとともに安土城考古博物館第一期展示改修工事に着手（～R6年度までの2ヶ年事業）

重点施策6 文化芸術と他分野との有機的な連携の促進

- 令和5年11月に江島副知事がオーストリア共和国ブルゲンラント州を訪問し、日本最大の湖・琵琶湖を保有する滋賀県とオーストリア最大の湖・ノイジードラー湖に面するオーストリア共和国ブルゲンラント州との間で交流と協力に関する覚書を締結。
- 滋賀ゆかりの文学作品等を通じて、県民が滋賀の歴史、風土、文化および自然等の魅力を発見することを目的として、司馬遼太郎氏生誕100年を記念し、滋賀ゆかりの人物や土地が登場する作品である『関ヶ原』を題材とした朗読会を開催し、152名が参加した。
- 文化活動者と経済界で組織されている文化・経済フォーラム滋賀の活動に対して補助金を交付。文化・経済フォーラム滋賀では、近江鉄道とその沿線を会場に、滋賀の太鼓をテーマにしたパフォーマンスや、芸術文化を学んだ若者や学生との意見交換会などを実施。

2 評価指標の状況

施策の柱3 「地域や社会に活かす」

目標達成指標 **2/4** (⑨、⑪)

評価指標 (把握方法／把握予定時期)	策定時 (R1)	実績値						目標 (R7)
		R2(参考)	R3	R4	R5	R6	R7	
⑧県内の指定文化財等の数 (国・県・市町の指定等実績から算出 ／令和6年6月)	3,465	3,500	3,522	3,553	3,570			3,585
⑨文化財を活用した県実施事業参加者数 (県事業の実績から算出／令和6年6月)	2,813	3,017	3,337	3,611	3,774			3,160
⑩地域に魅力や誇りを感じる文化芸術 資源があるとする県民の割合 (県政モニターアンケート／令和5年9月)	—	—	70.7	81.1	74.6			85.0
⑪地域において文化芸術と他分野との 連携した取組があるとする県民の割合 (県政モニターアンケート／令和5年9月)	—	—	60.9	66.7	68.4			50.0

3 関連する情報

- ・昨年度と比べて17件増加
- ・最多は東近江

⑧「県内の指定文化財等の数」(地域別)

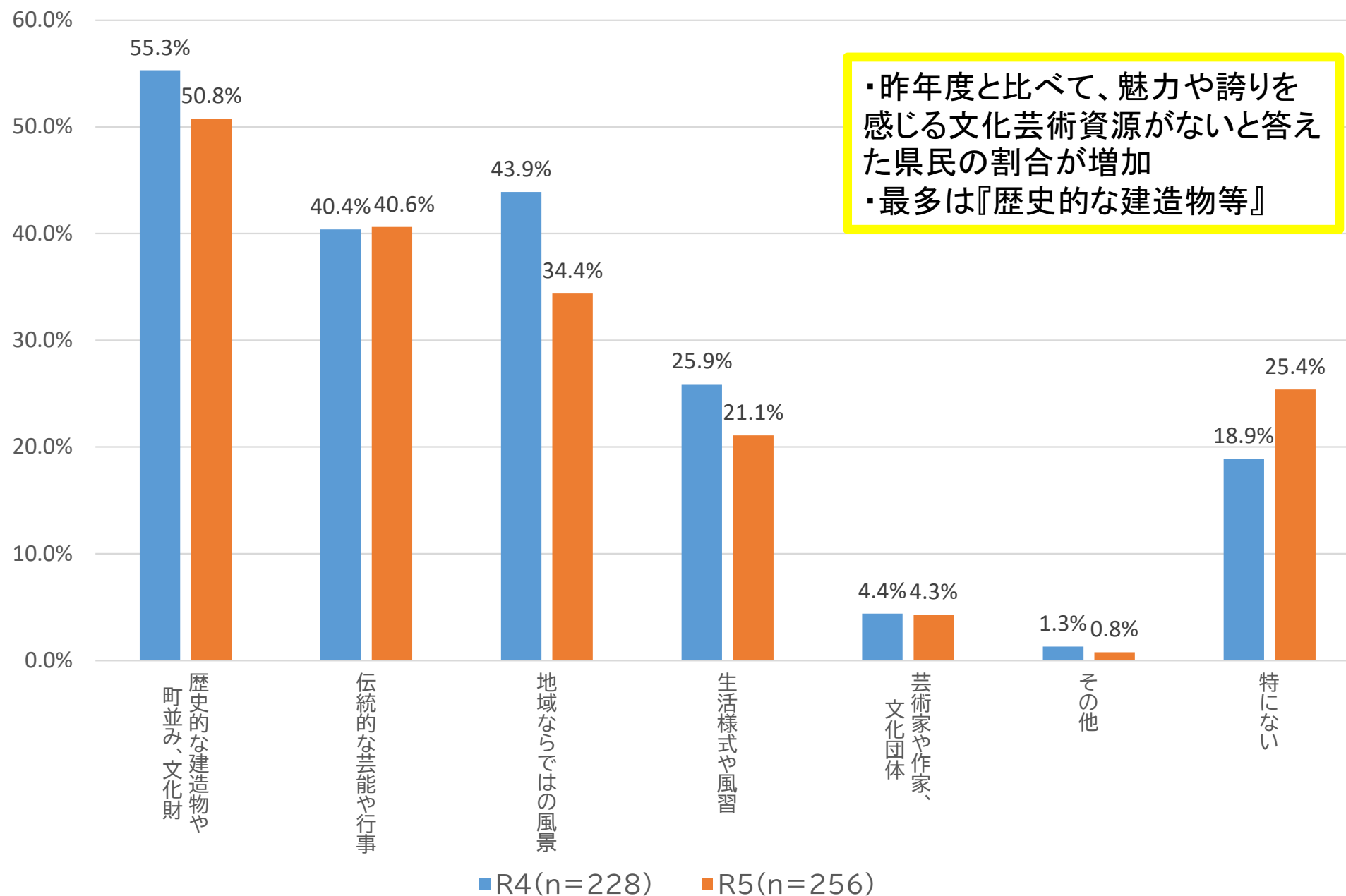
単位:件

	大津	南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	湖西	県内一円	合計
国指定	471+1/2	137+2/3	130+1/3	346+1/2	160	176	32	2	1,456
県指定	91	71	59	102+1/2	48+1/2	127	23	6	528
市町指定	125	253	211	361	170	344	122	0	1,586
合計	687+1/2	461+2/3	400+1/3	810	378+1/2	647	177	8	3,570

R4(参考): 3,553件

3 関連する情報

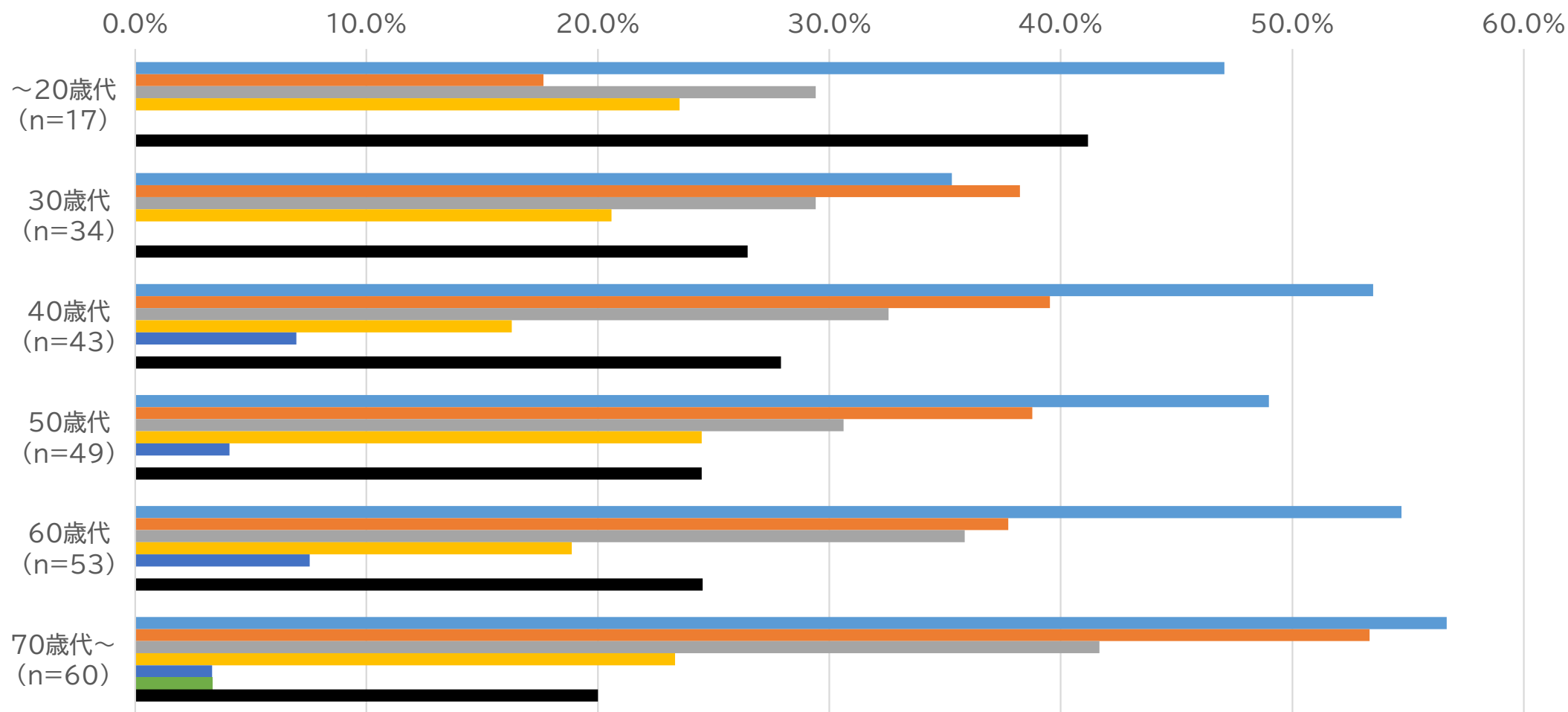
魅力や誇りを感じる文化芸術資源の内容別の県民の内訳(評価指標⑩関連)※複数回答可



3 関連する情報

魅力や誇りを感じる文化芸術資源の内容別の県民の内訳(評価指標⑩関連)(年代別) ※複数回答可

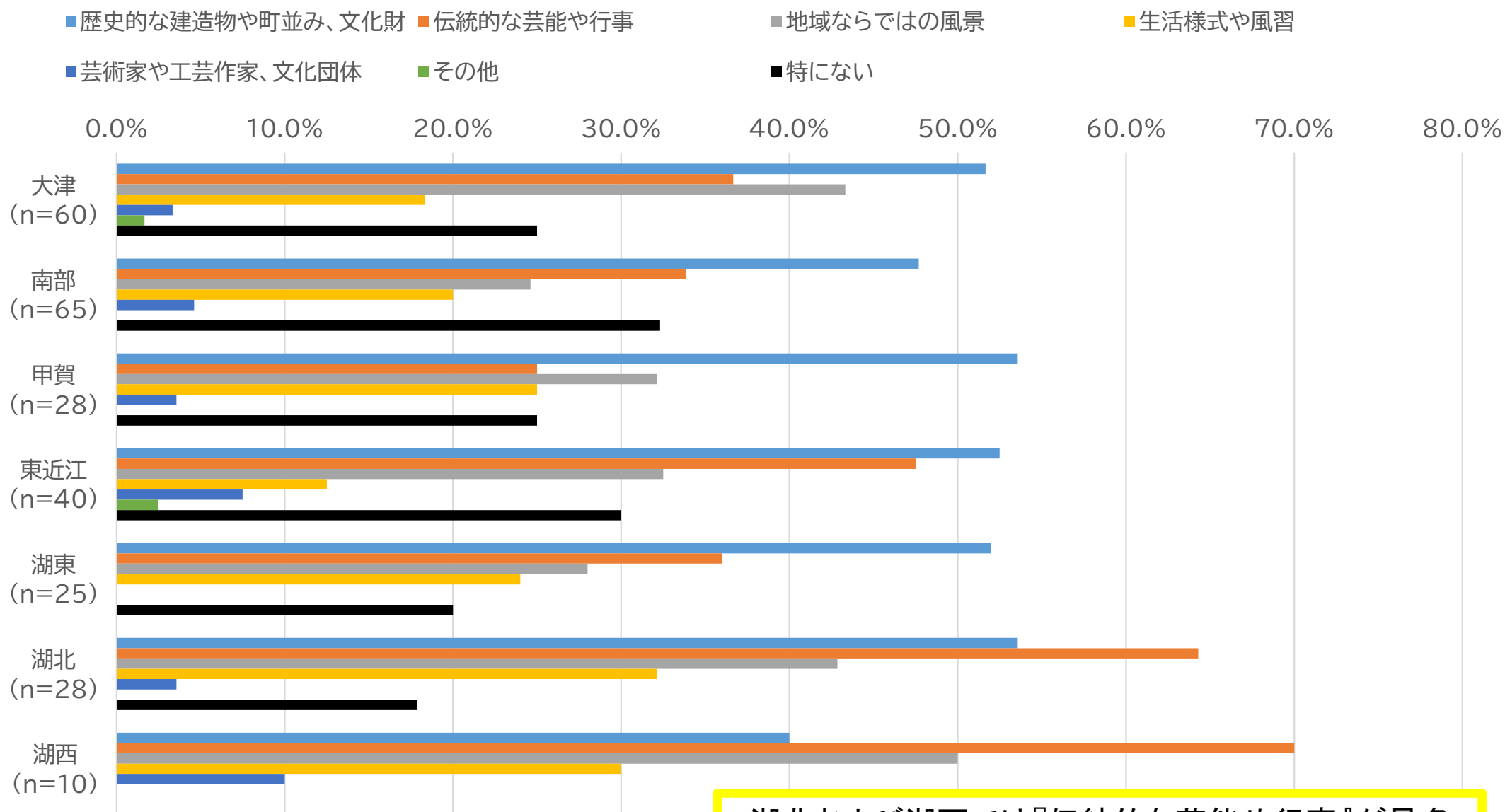
■歴史的な建造物や町並み、文化財 ■伝統的な芸能や行事 ■地域ならではの風景 ■生活様式や風習 ■芸術家や作家、文化団体 ■その他 ■特にない



・若年層ほど『特にない』の割合が高い

3 関連する情報

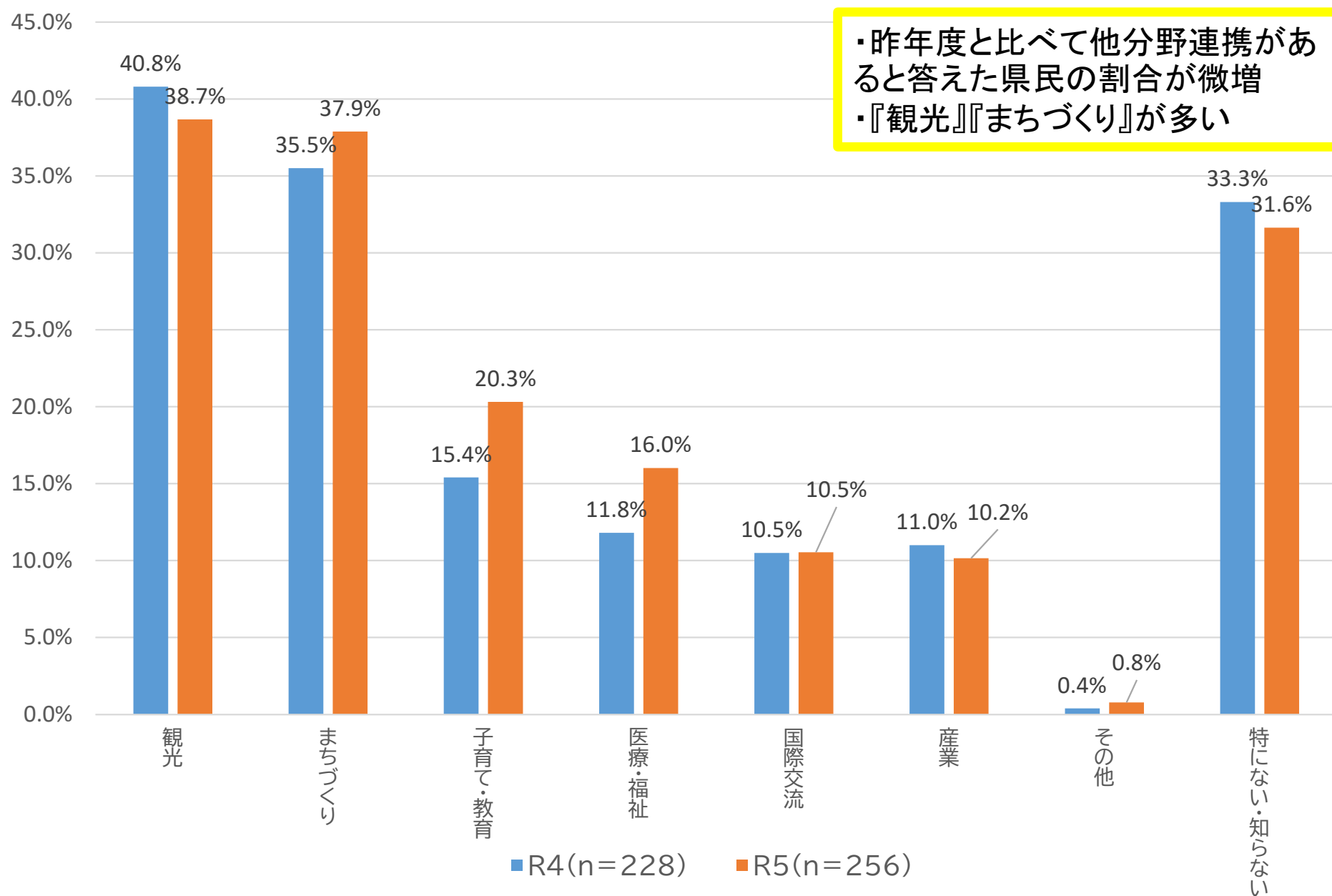
魅力や誇りを感じる文化芸術資源の内容別の県民の内訳(評価指標⑩関連)(地域別) ※複数回答可



・湖北および湖西では『伝統的な芸能や行事』が最多で、60%を超えている

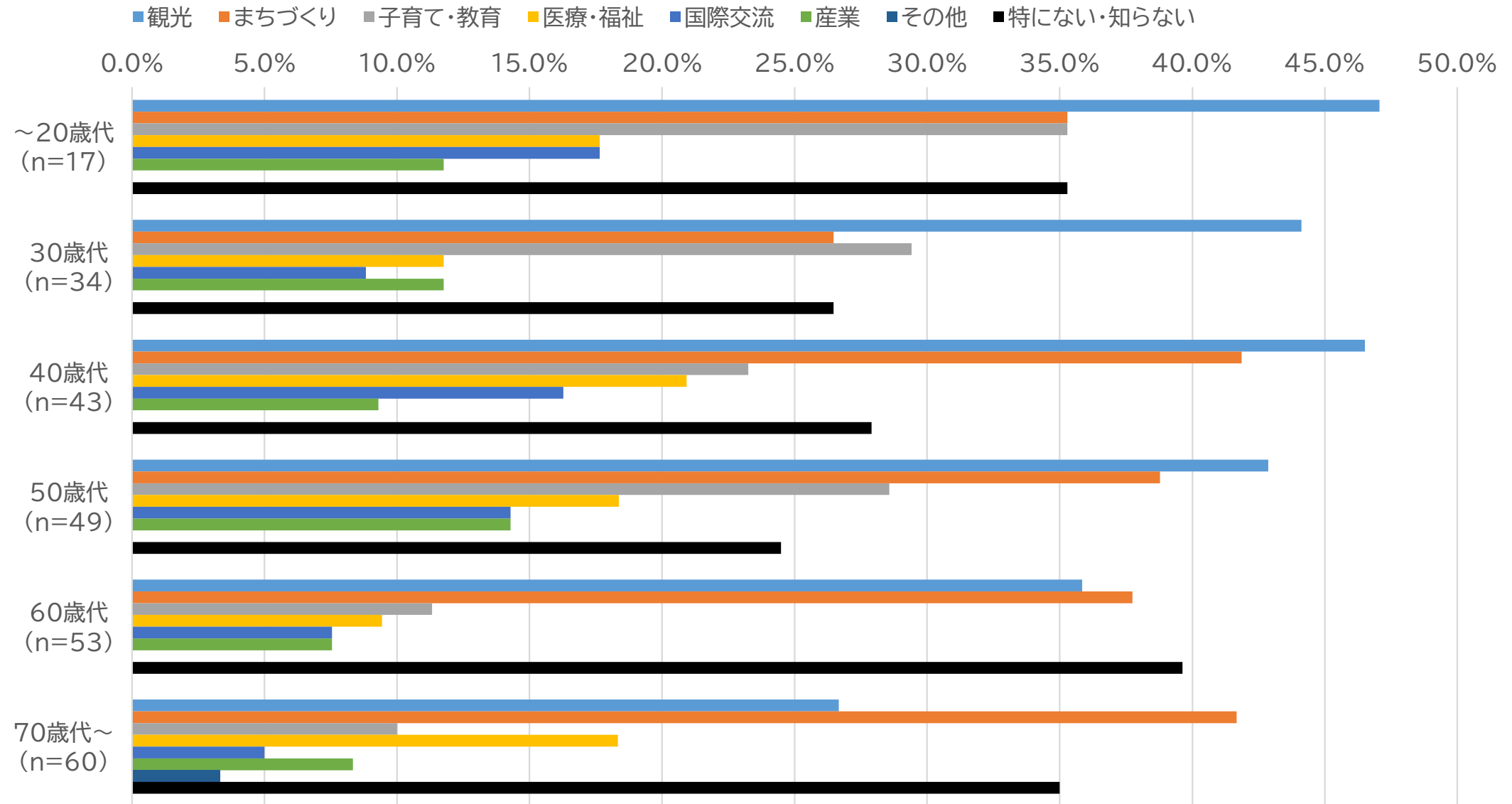
3 関連する情報

地域において文化芸術と連携した分野別の県民の内訳(評価指標⑪関連)※複数回答可



3 関連する情報

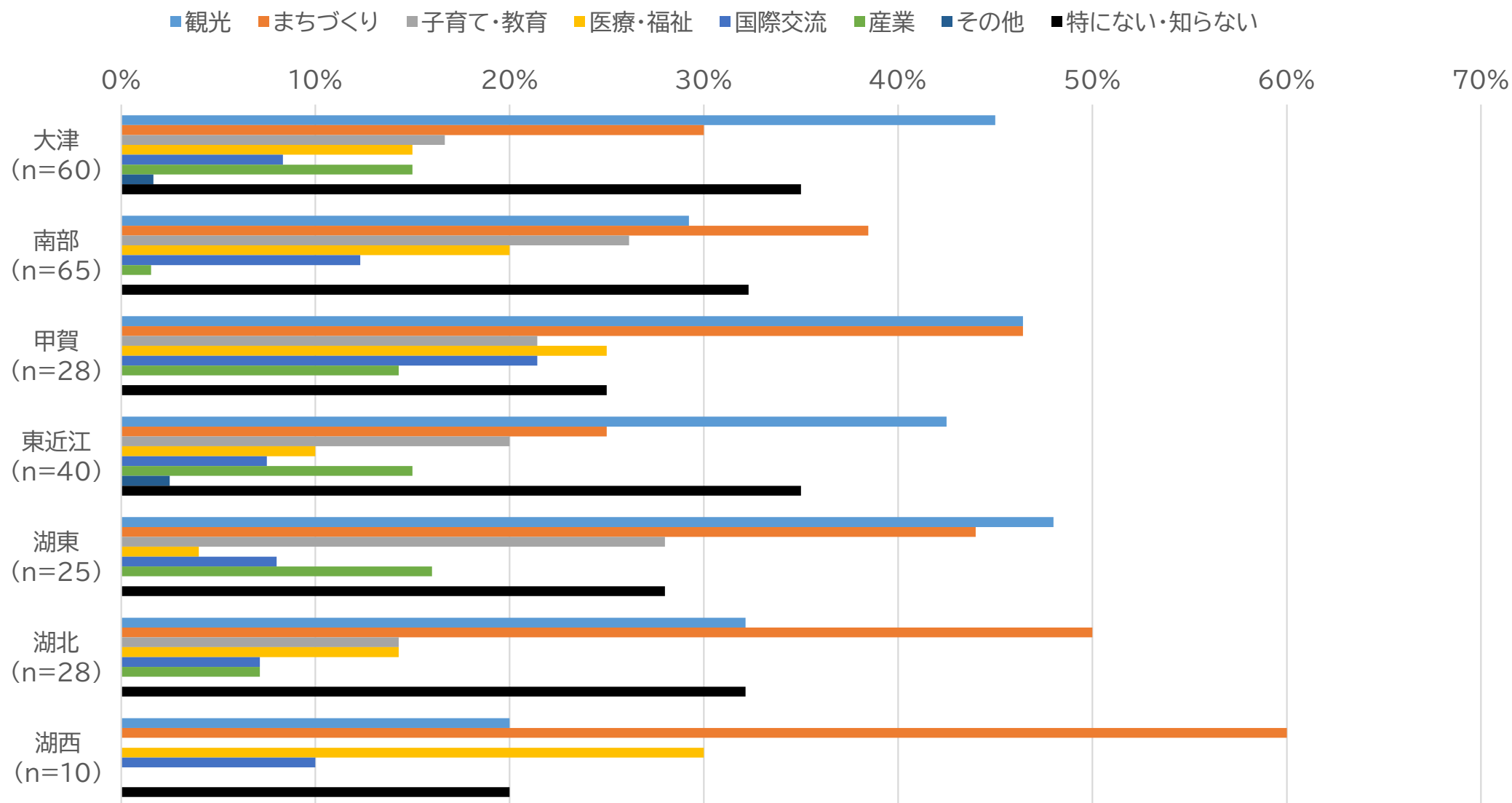
地域において文化芸術と連携した分野別の県民の内訳(評価指標⑪関連)(年代別) ※複数回答可



- ・若年層ほど『観光』を選ぶ傾向が強い
- ・高齢者で『特にない』が多い

3 関連する情報

地域において文化芸術と連携した分野別の県民の内訳(評価指標⑪関連)(地域別) ※複数回答可



・南部、湖北および湖西では『まちづくり』が最多で、過半数

4 まとめ

- 指標⑧の県内の指定文化財等の数は策定時から105件増加し、目標(3,585件)達成目前となった。引き続き、指定文化財等の発掘・保存・活用に努めていく。
- 指標⑨の文化財を活用した県実施事業参加者数は策定時から961人増加し、3年連続で目標を達成した。引き続き訴求力のある事業実施に努めていく。
- 指標⑩の地域に魅力や誇りを感じる文化芸術資源があるとする県民の割合は74.6%と前年度から6.5ポイント減少した。滋賀の文化芸術資源の魅力を効果的に発信できるよう、各種事業の広報強化に取り組む。
- 指標⑪の地域において文化芸術と他分野との連携した取組があるとする県民の割合は68.4%となり目標を上回った。高齢者の割合が低いことから、高齢者の身近にある分野（医療・福祉等）において連携を強化し、改善に努めたい。

全体総括

- 11の評価指標のうち、令和7年度までの目標値を達成したのは4指標(①、⑥、⑨、⑪)で、昨年度と同じ結果となった。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行の影響等により、多くの指標で昨年度実績よりも改善がみられた。
- 柱1「場をつくる」では、全ての指標において昨年度以上の数値となっており、誰もが文化芸術を享受できる機会が定着しつつあると評価できる。ただし、年齢・地域による差が見られたことから、特定の年齢層や地域をターゲットにした事業を実施し、滋賀県全域における定着を図りたい。
- 柱2「人を育む」では、文化芸術の創作活動に携わったり、支えたりする人材に係る指標で目標値まで大きく差があり、課題が残る状況である。次世代への継承につながる事業や県内外に向けた魅力発信等に力をいれる必要がある。
- 柱3「地域や社会に活かす」では、半数の指標で目標を達成しており、一定進捗したと評価できる。引き続き他分野との有機的な連携に努めるとともに、地域の文化芸術資源の価値を県民が感じられるような施策を実施していきたい。
- 実施期間も後半となっていることから、市町や関係機関等と連携しながら、引き続き基本目標である「文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀」の実現を目指していく。